

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校 宮城県大崎市立古川北中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

所在地 〒989-6252

宮城県大崎市古川荒谷字権現山5

E-mail osaki_fk-jh@educ.osaki.miyagi.jp

Website <http://www.educ.osaki.miyagi.jp/fkj/>

幼児児童生徒数 男子 118名 女子 121名 合計 239名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1, 2-1に対応

当校は、ユネスコスクールとして持続可能な地域社会づくりの担い手をはぐくむため、「防災・福祉・環境」をテーマに掲げ、(1) 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育み、思いやり、分かち合い、共に考える生徒の育成。(2) 他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重し、地域社会に貢献できる生徒を育成する。以上の2つを目標とした。

具体的には、環境、防災を柱に、①化女沼周辺の環境学習、②震災復興支援活動を行った。

① 化女沼周辺の環境学習に係わる活動

NPO法人「エコパル化女沼」副理事長である、高橋和吉氏を講師に迎え、化女沼に生息する植物や生物の実態及び化女沼の抱える課題や保護の実情についての講演を聞いた。講演を聞き、故郷の自然を守る必要性を認識した生徒が多かった。

後日、化女沼にある古代の里付近の「自由広場」で里山と湿地の再生活動に取り組んだ。きれいにしたばかりの遊歩道を歩き、化女沼に自生する植物の説明をしていただき、その後ワレモコウやミクリなどの草花を植樹した。

② 震災復興支援に係わる活動

NPO法人「雄勝ローズファクトリーガーデン」の協力のもと、東日本大震災の津波で大きな被害を受けた石巻市雄勝で敷地内除草作業及び石運びを行ってきた。また、文化祭で募金活動を行い、集まったお金を「雄勝ローズファクトリーガーデン」に寄付した。

作業終了後、津波の被害が大きかった門脇小学校を車窓から見学してきた。



① 化女沼周辺の環境学習に係わる活動



② 化女沼周辺の環境学習に係わる活動



③ 震災復興支援に係わる活動



④ 震災復興支援に係わる活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度

<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ウェブサイト：化女沼ダムの概要，化女沼古代の里

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項1-2, 1-3に対応

<p>みやぎの志教育の3つの視点との関連や、学校教育目標重点事項との関連を図りながら、計画的に体験活動を取り入れ、ESDで培いたい次の「価値観」を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳はかけがえがない。 ・私たちには社会的、経済的に公正な社会を作る責任がある。 ・現世代は将来世代に対する責任をもっている。 ・人は自然の一部である。 ・文化的な多様性を尊重する。 <p>活動を行う際に、その活動で育てたい資質や能力を明示し、自分で、あるいは協働して課題を見出し、解決を図る学習課程を編成する。また、体験活動は、総合的な学習の時間に実施し、教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに指導方法の工夫改善に努めている。</p>

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項1-4に対応

<p>学校内外における各種研修の充実・活用を図り、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展できるよう心がけている。また、学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ計画的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくしている。ユネスコスクールの活動を本校の学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努めている。</p>

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項1-5に対応

ユネスコスクールの活動を本校の学校評価（内部）の項目に盛り込み、学期ごとに振り返り、活動の質の向上に努めている。

成果としては、今回の活動で、地域の一員としての自分の関わりや果たすべき役割を認識でき、それにより、環境保全や防災に対する意識が高まった。また、地域の復興や活性化のために将来も関わってくれることが実感できた。

課題としては、学年間の連続性や、教科学習との横断的な系統性など、今後の計画が大切である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項2-2に対応

今年度、化女沼周辺の環境学習で学んだことを、文化祭で発表した。「自由広場」の自然環境の素晴らしさを守る取り組みを発表したことで、湿地「化女沼」の豊かな自然環境を大人から子どもまで身近に体験し、学習できる環境エリアとして再生している場所であることを再認識できた。また、実行委員を中心に被災地支援の募金などの活動に取り組んだことで、生徒の主体性が養われた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

今年度、化女沼周辺環境学習において、NPO法人「エコパル化女沼」副理事長である、高橋和吉氏を講師に迎え、講演を聞いたり、里山と湿地の再生活動に取り組んだりした。

また、3年生の震災復興支援に関する活動では、NPO法人「雄勝ローズファクトリーガーデン」の協力のもと、除草作業及び石運びを行ってきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合う機会を通るようにしていきたい。また、必要に応じ、ASPUivNet 加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

本校のユネスコスクールの学習では、地域の持続可能にかかわる課題を考える学習を取り入れたことで、生徒の学習への参加意識の高まりを感じた。活動を通して、未来を予測して計画を立てる力や他者と協力する力、つながりを尊重する力が身に付いてきたように感じる。

また、地域の人材やNPO法人の支援や協力を得る場面が増えてきた。今後も地域の人材を活用しながら、多様な立場、世代の人たちと学ばせていきたい。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

普段何気なく見過ごしている故郷の豊かな自然環境に関心をもたせるため、化女沼の自然に関する学習を予定している。その際、29年度と同様に、NPO法人「エコパル化女沼」副理事長である、高橋和吉氏を講師に迎え、講演を聞いたり、里山と湿地の再生活動に取り組んだりしてみたいと思う。特に、「化女沼自由広場」で行われている里山と湿地の再生活動は、「エコパル化女沼」の会員が今後10数年をかけて行う予定の事業であり、中学生も継続して取り組んでいける活動だと思う。

3年生では、震災・防災支援活動を行う予定である。活動の際には、石巻市の社会福祉協議会と連携し、NPO法人を紹介してもらう予定である。